

Nikon



Technical Guide

D810



Jp

目次

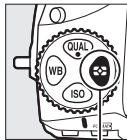
ハイライト重点測光の効果的な使い方	3
● ハイライト重点測光の設定方法.....	3
● ハイライト重点測光が適したシーン.....	4
2点拡大の効果的な使い方	8
● 2点拡大の設定方法.....	8
● 2点拡大の使い方.....	9
● 建築物を正確に左右対称に撮影するテクニック.....	10
● PC-Eレンズ使用時に効果的な2点拡大活用法.....	12
電子先幕シャッターの効果的な使い方	13
● 電子先幕シャッターを使った撮影方法.....	13
● 特に効果を発揮できるシチュエーション.....	15

ハイライト重点測光の効果的な使い方

ハイライト重点測光は、被写体より背景が暗く、照明状態の変化も大きな舞台撮影などに適しています。舞台上で踊るバレリーナや、スポットライトを浴びたウェディングドレス姿の花嫁などに有効です。

● ハイライト重点測光の設定方法

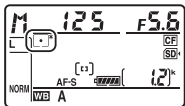
☞ ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、☞* に設定します。



☞ ボタン



メインコマンドダイヤル



上面表示パネル

● ハイライト重点測光が適したシーン

被写体より背景が暗く、被写体が動体の場合

ハイライトを基準にした測光を行う場合はハイライト重点測光が適しています。

スポット測光は、被写体の一部だけを測光することが可能ですが、被写体が動いていると測定領域を被写体に合わせにくいいため、測光ができにくくなります。またマルチパターン測光では、背景を含んだ画面全体の露出バランスを取ろうとするため、ハイライト部分が飛んでしまうことがあります。ハイライト重点測光を使用すれば、被写体のハイライト部分をカメラが自動的に判別して測光するため、煩雑な操作をせずに白飛びを抑えた露出が得られます。



マルチパターン測光：絞り優先、1/100 秒、f/5.6



ハイライト重点測光：絞り優先、1/320 秒、f/5.6

舞台上で動く被写体だけを浮き上がらせる

マルチパターン測光の場合、全体を測光して平均化するため、舞台の背景まで明るくなってしまい、被写体を浮き上がらせる効果が得られません。また画面の明部と暗部の比率が変わると、露出レベルが変化するため、こまめに露出を補正する必要があります。ハイライト重点測光は、明部と暗部の比率にかかわらず、ハイライト部分が常に一定のレベルになるように露出制御されるため、被写体を浮き上がらせる効果が得られます。

色照明や、被写体が単色の場合

ハイライト重点測光では、色も考慮してハイライトが飛ばないように制御されます。

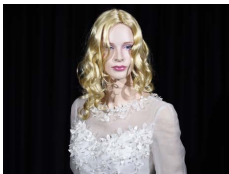
マルチパターン測光では、明度の高い部分を多少飛ばしても全体が適正になるように露出を制御します。またスポット測光の場合、光の輝度のみで測光を行うため、ハイライト部がオーバーになりがちです。ハイライト重点測光はハイライト部の色を考慮して測光するため、ハイライトが飛ばないように制御されます。



絞り優先、1/200 秒、f/5.6

ハイライト重点測光の効果的な使い方

■ 光源によるマルチパターン測光とハイライト重点測光の違い



マルチパターン測光：絞り優先オート、1/60 秒、f/2.8

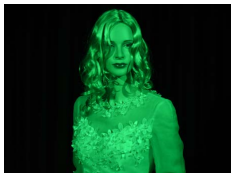


ハイライト重点測光：絞り優先オート、1/125 秒、f/2.8

ハイライト重点測光では、白飛びしない事を最優先で制御するため、最明部の面積によっては露出がアンダー気味に感じる場合があります。その場合は、作品意図に合うように露出補正することをおすすめします。



マルチパターン測光：絞り優先オート、1/60 秒、f/2.8



ハイライト重点測光：絞り優先オート、1/200 秒、f/2.8

ハイライト重点測光を使用すると、被写体の色成分が極端に偏ったシーンでも、その色が飛ばないように制御されます。

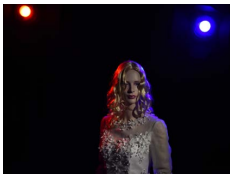
ハイライト重点測光を使用する場合に注意が必要なシーン

- 被写体より背景が明るい場合、背景を測光してしまうため、被写体が暗くなってしまう。被写体をシルエットとして表現する場合はハイライト重点測光が向いていますが、被写体に露出を合わせたい場合はマルチパターン測光をおすすめします。



ハイライト重点測光：絞り優先オート、1/6400 秒、f/2.8

- 画面内に強い光源が入ると、光源をハイライトと認識してしまい、被写体が暗くなる場合があります。被写体に露出を合わせたい場合は、光源を構図から外すか、マルチパターン測光を使用して撮影することをおすすめします。



ハイライト重点測光：絞り優先オート、1/200 秒、f/2.8

ハイライト重点測光とアクティブ D-ライティングとの併用

ハイライト重点測光とアクティブ D-ライティングを組み合わせると、暗部が明るくなり、輝度差が緩和された画像になります。撮影意図に合わせてご使用ください。

2点拡大の効果的な使い方

同じ水平面上の異なる2カ所を同時に拡大表示します。建築物などを正面から左右対称に撮影したいときに便利です。

● 2点拡大の設定方法

静止画ライブビュー時に **i** ボタンを押して [2点拡大] を選ぶと、左右に並んだ拡大表示画面が表示されます (2点拡大表示)。それぞれの画面には、ナビゲーションウィンドウの2カ所の □ 部分が拡大されて表示されます。



ナビゲーション
ウィンドウ

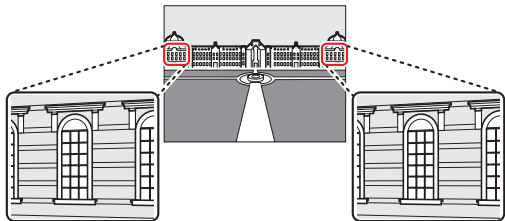
- **Q** ボタンを押すごとに拡大率が上がり、**Q** ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- **On** (**☒/?**) ボタンを押すと、左右の画面を切り換えられます。マルチセレクターの **⏪** または **⏩** を押すと、左または右、それぞれの拡大表示画面を横方向にスクロールできます。
- マルチセレクターの **⏴** または **⏵** を押すと、左右の拡大表示画面が縦方向に同時にスクロールします。
- シャッターボタンを半押しすると、選択されている画面の中心点にピントが合います。
- 2点拡大表示を終了する場合は **i** ボタンを押します。



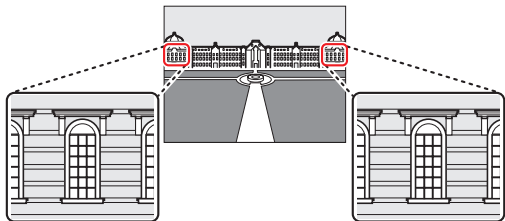
ピントが合う部分

● 2点拡大の使い方

一見、左右対称に見えますが、ある部分を拡大してみると、右と左で角度が異なり、パースがかかっています。

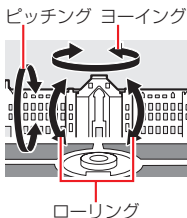


あらかじめ2点拡大機能を使って左右の二カ所を拡大し、角度を確認することで、パースのかからない、真正面から見て左右対称の被写体を撮影することができます。



● 建築物を正確に左右対称に撮影するテクニック

建築物を正面から撮影し、正確に左右対称の仕上がりにするためには、カメラの角度を厳密に合わせる必要があります。水平（ローリング）やアオリ（ピッチング）の傾きはカメラの水準器で合わせ、上下を軸とした回転（ヨーイング）は2点拡大を使用して調整を行います。



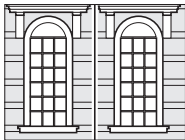
1 静止画ライブビュー時に **info** ボタンを押して水準器を表示し、カメラの傾きを水平にする

- ・液晶モニターにローリング方向とピッチング方向の水準器が表示されます。
- ・カメラを正位置（傾きのない状態）にすると、ローリング方向の場合は水準器表示の基準線が緑色に変わります。ピッチング方向の場合は中央の●が緑色に変わります。



2

2点拡大を使って建物が左右対称になるようにカメラの位置を調整する



- カメラのヨーイング方向の角度をパースがかからないように調節します。



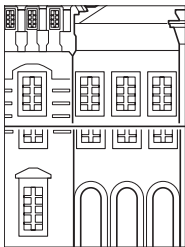
- 2点拡大表示を終了しても、再度2点拡大表示すると前回拡大した領域が液晶モニターに表示されます。カメラの電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると拡大位置がリセットされます。
- カスタムメニュー d7 [ファインダー内格子線表示] を [する] に設定することで、ファインダーで構図を確認することもできます。

2点拡大の効果的な使い方

● PC-E レンズ使用時に効果的な2点拡大活用法

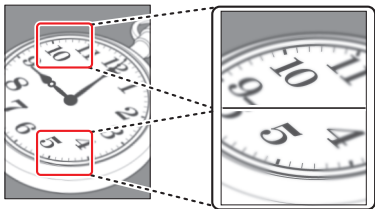
シフト機能使用時に遠近感を補正する

建築物を下から撮影する時に生じる遠近感を、「レンズ全体を」建物と平行に「カメラに対して」スライドさせる事で補正してくれるのがシフト機能です。2点拡大を行って、建物の上辺の角と下辺の角が垂直になるようにシフト量を調節すれば、より正確に遠近感の補正を行えます。



ティルト機能使用時にピント範囲を確認する

商品撮影を行う時に、商品の傾きに合わせて「レンズ全体の」「カメラに対する」角度を変える事で、ピントの合う範囲をコントロール出来るのがティルト機能です。2点拡大を行って確実にピントを合わせたい箇所を表示すれば、確認がしやすくなります。

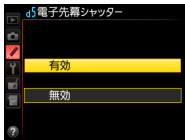


電子先幕シャッターの効果的な使い方

カメラはフォーカルプレーンシャッター（「先幕」と「後幕」と呼ばれるメカニカルの2枚のシャッター幕）を使用して撮影しています。電子先幕シャッターを使用すると、先幕を開けたまま撮像素子を電子制御して露光を開始し、後幕シャッターを閉じて露光を終了させます。メカニカルな先幕シャッターを動作させずに露光させるため、シャッターをきったときの、シャッター可動部分の振動によるカメラブレが抑えられます。

● 電子先幕シャッターを使った撮影方法

- 1 カスタムメニュー d5 [電子先幕シャッター] を [有効] に設定する



- 2 レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを M_{UP}（ミラーアップ撮影）に合わせる



レリーズモードダイヤル

- 3 シャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせた後、全押しする

・ カメラがミラーアップします。

電子先幕シャッターの効果的な使い方

4

もう一度シャッターボタンを押す

- ・電子先幕シャッターを使って撮影を行います。

- ・ブレを防ぐため、別売のワイヤレスリモートコントローラーまたはリモートコードを使用し、ミラーアップ時の振動が収まるまで1～2秒間隔をあけて撮影することをおすすめします。
- ・撮影が終了すると、ミラーダウンします。
- ・三脚の使用をおすすめします。
- ・ミラーアップしたまま約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。
- ・PC-Eレンズでアオリ撮影を行う場合に、シャッタースピードを1/250秒以上の高速シャッターにして電子先幕シャッターを使用すると、露出ムラが生じることがあります。シャッタースピードを1/250秒以下に設定して、撮影条件を設定してください。

● 特に効果を発揮できるシチュエーション

超望遠レンズやテレコンバーター使用時、望遠鏡や顕微鏡撮影時など、特にブレに敏感な機材で撮影を行う場合はカメラブレが出やすくなります。このような場合や、文献複写などの厳密な撮影を行う場合に電子先幕シャッターを使うと、効果的にカメラブレを回避できます。

■ AF-S NIKKOR 80-400mm f/4.5-5.6G ED VR を三脚座に固定



絞り優先オート、
1/50 秒、f/11、
焦点距離 195mm



電子先幕シャッター：有効



電子先幕シャッター：無効

露出ディレイとの違い

カスタムメニュー d4 [露出ディレイモード] を使用してもカメラブレを抑えることができます。ただし、メカニカルシャッターは動作するため、ミラーアップの振動は回避できてもシャッターの振動によるブレは抑えられません。